

## 青山神明遺跡 A 区・B 区、注目の遺物



A 区-⑥ 出土状況



A 区-⑥ 出土した有舌尖頭器

ゆうぜつせんとうき

有舌尖頭器：縄文時代の草創期、約 15000 年前に槍の先端につけて使われた石器です。有舌という名の通り茎部（舌部）を有している点、右から左へ中心線を超えて斜めに剥離が行われている点（斜状平行剥離）などが特徴です。石材は下呂石が使用されています。出土状況としては縄文時代より新しい時代の層から出土しました。他に縄文時代の遺構、遺物は見つかっていませんが、欠けたり、破損がほとんどない状態で出土したため、この付近で狩猟活動などをしていた際に落としたものが混入したとも考えられます。



A 区-⑤ 灰釉陶器の出土状況



写真：日進市三ヶ所遺跡、灰釉陶器長頸瓶  
出典：あいち埋文遺跡アルバム

かいゆうとうきへいるい

灰釉陶器瓶類：9～10 世紀、平安時代に愛知県の尾張東部～西三河のあたりで生産された陶器です。瓶類とは小型の壺のことを指します。この陶器の特徴としては日本において初めて灰釉という釉薬を意図的に使用して生産された焼き物という点があげられます。釉薬とは焼き物の表面にガラス質のコーティングを施すために、焼成前に塗られる液体のことを指します。この瓶類は蔵骨器として土坑に埋納された可能性があります。

# 青山神明遺跡

## 地元説明会資料



青山神明遺跡は、愛知県西春日井郡豊山町青山神明、大山川の右岸沿いに所在する広大な遺跡です。今年度、発掘調査を実施している A・B 区は、大山川洪水調節池の工事に伴い、5 月末に調査を開始しました。9 月末に終了する予定です。

今回の説明会では調査が完了した A 区の北側と B 区で確認された遺構、遺物について説明します。主な調査成果としましては平安時代の終わり頃から室町時代のことを指す中世という時期（11 世紀後半～15 世紀）の遺構、遺物が多く確認されました。

また、他の時代の遺物では縄文時代草創期（約 15000 年前）の石器である有舌尖頭器や古墳時代（4～5 世紀）の土師器、平安時代（9～10 世紀）の陶器である灰釉陶器など多くの時代の遺物が確認されました。

編集・配布



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター  
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24  
<http://www.maibun.com>

調査支援



株式会社 二友組

〒465-0093 名古屋市中東区一社四丁目 255 番地  
<https://niyu.jp/>

# 青山神明遺跡 A 区・B 区の遺構、遺物



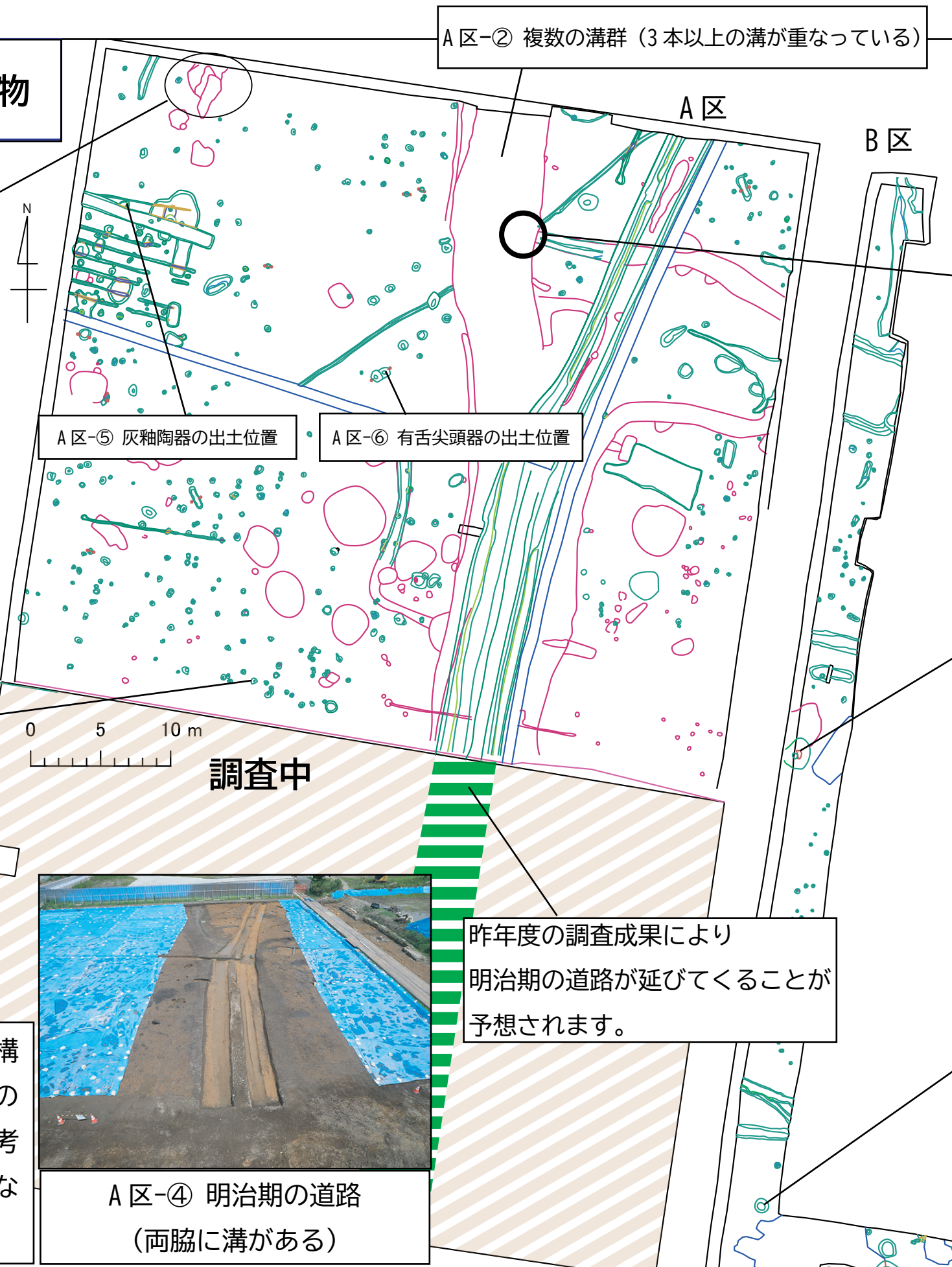
A 区-① 平安時代末の井戸  
(12 世紀後半)



A 区-⑦ 古墳時代の  
土師器の高坏たかつき (4～5 世紀)

青山神明遺跡 A 区北側・B 区で主に確認される遺構としては、溝や井戸、そして多くの土坑（用途不明の穴の総称）になります。深い土坑の多くは柱穴だと考えられるのですが、ほったてばしらたてもの掘立柱建物を復元するにはさらなる検討を要します。

※土師器とは：古墳時代以降に生産された、比較的低温で焼かれた土器のことです  
 ※※山茶碗とは：中世（11 世紀後半～15 世紀ごろ）に東海地方を中心に生産されたゆうやく釉薬をかけない陶器のことです



A 区-③ 溝に見られる集石遺構



B 区-① 平安時代末の井戸  
(12 世紀後半)  
山茶碗、土師器の鍋などが  
粘土塊をとまって出土



B 区-②  
室町時代の井戸（14 世紀）  
墨書が底部外側に  
施された山茶碗が出土